

爆音をたてて飛び立つ
ロケットの周囲を
星座で埋め尽くした
3・5メートル超えの大作

《手織錦壁掛 星座・月・ロケット》
1958年 京都市美術館

2027
2/20
SAT
↓
4/11
SUN

主催ー東京ステーションギャラリー（公益財団法人東日本鉄道文化財団）、産経新聞社
休館日ー月曜日（3/22、4/5は開館）、3/23
開館時間ー10～18時（金曜日120時）＊入館は閉館の30分前まで



山鹿清華

[仮称]

生誕140年記念

YAMAGA SEIKA

東京都千代田区丸の内1-9-1
「JR東京駅 丸の内北口 改札前」
TEL 03-3212-2485
<https://www.ejrc.or.jp/gallery/>

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY



山鹿清華

YAMAGA SEIKA

京都で活版印刷業を営む家に生まれた山鹿清華（やまが・せいか／1885～1981）は、十代の頃に西陣織の図案と日本画を学び始めました。その後、神坂雪佳に師事し、創作の幅を広げていきます。図案、糸の選択、織りまでの工程をひとりで行う「手織錦」を自ら創案したことと勢いをつけ、1927年、新設されたばかりの帝展・美術工芸部門に《手織錦壁掛 和蘭陀船》を出品し、特選を受賞しました。

手掛けたものは、寺院の仏幡から、お祭りの懸装品、劇場の緞帳、客船の室内装飾、タペストリーまで幅広く、作品の主題も、天女や雲龍などの伝統的な図柄から、機関車、ロケット、東京タワー、冷蔵庫といった時代を映すユニークなものまで、実に多様で奇抜です。山鹿は明治、大正、昭和にわたり染織の伝統継承に努めるいっぽうで、進取の気風にも富んだ稀有な存在だったといえるでしょう。

本展は、山鹿清華の代表作や織下絵、資料などで振り返る40年ぶりの回顧展です。



《手織錦壁掛 和蘭陀船》
1960年 京都市美術館

ユニークなモチーフと
写実性と装飾性のあわせ技



《手織錦屏風 立花》
1935年 京都市美術館

絵筆のように手織錦を操り
複雑な色彩も表現



新名所は
はみ出さんばかりの
大胆な構図で

東京タワーは開業時、
世界一の高さを誇る鉄塔でした

《手織錦壁掛 東京タワー》
1958年 京都市美術館

このほか、染織家への道を開いた《手織錦壁掛 和蘭陀船（織下絵）》や、戦時下の満鉄特急列車「あじあ号」をモチーフにした《手織錦 鷺進》などを出品予定です！

- 本展は、京都市京セラ美術館（2026年9月19日～12月20日）で開催後、当館に巡回します
- 広報に関するお問い合わせ：東京ステーションギャラリー学芸室 TEL. 03-3212-2763